

チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注)	No.	タイトル	自治体名
	11	家庭養護の推進、地域包括ケアシステムの推進	東京都中野区
アイデア名 (公開)	子供の自発的な学びを支える地域のしくみづくり		

(注) 地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	CoderDojo 中野		
チーム属性 (公開)	☒ 1. 市民によるチーム ☐ 2. 学生によるチーム ☐ 3. 市民、学生の混成によるチーム		
代表者情報	氏名 (公開)	飯沢邦之	

※ 公開条件について

次ページ以降の「2. アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

(注意書き)

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2016_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_padit_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

＜公開非公開など＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
4. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。
5. 「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

＜チームメンバー名簿＞

6. チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア（公共サービス）のストーリーを語ってください。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれがする、何をする、どこでする、いつする、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

プロジェクトの目的

- ・プログラミングを学ぶ過程で得られる成功体験を積み重ねることで子供が自発的な学びができるようになる
- ・プログラミング学習を知らない親向けに学び方や得られる成果を共有する
- ・プログラミング学習をきっかけとして「共感」、「参加」、「支援、協力」といった地域コミュニティを形成し、市民が自発的に子供の学びを支えるしくみをつくる
- ・参加者に対してインタビュー等を実施し、洞察を得る
- ・アフタースクールの運営者と協力をして、平等な学びの機会を得られる機会を増やす

実施内容 活動は全てボランティアによる活動

- ・社会貢献をしたい地域住民(IT エンジニアなど)に地域貢献の場を提供する
- ・ホームページ上で子供のプログラミングの学びに関する情報を共有、活動の報告を行う
- ・ソーシャルメディアサービス等を利用したコミュニティ運営

ゴール

子供の自発的な学びを育む

身近な社会課題について取り組むことができる
自ら課題を見つけて動くことができる

子供に対して：

プログラミング学習を通じて
小さな成功体験の積み重ねを得る

親に対して：

プログラミング学習の理解

中野区

防災アプリ制作などアウトプットの機会を
区とイベントを共同で開催
子育てに関する区のデータ提供

アフタースクール

指導者の育成
平等な学びの機会を増やす



CoderDojo 中野

場の提供

毎月無料のプログラミング教室を開催

インタビュー調査で得られた
学びに関する情報を区に共有

活動に「参加」

地域の7才～17歳の子供
地域の子供をもつ親

募金などを通じて
活動に「参加」

地域の企業
地域住民

指導者として「参加」
社会貢献活動の機会

地域に住むITエンジニア

区の保有するデータのオープンデータ化は「Code for Tokyo」の協力を得て実現を行う

(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアにするのか）を、それをサポートする数値データ（実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の 2 ページの欄内におさまるようお願いします。

子どもの育ちを支える地域づくり・サービスの充実

重要業績評価指標	基準値	目標値(平成 32 年度(2020))
子育ての自主的な取組や 地域の育成活動などに参 加した大人の人数	15,799 人 (平成 26 年度(2014 年度))	18,000 人
地域の育成活動に参加し た子どもの人数	23,030 人 (平成 26 年度(2014 年度))	24,000 人
保育施設における在園児 保護者の満足度	95% (平成 26 年度(2014 年度))	100%

地域活動へとつながる学びの推進

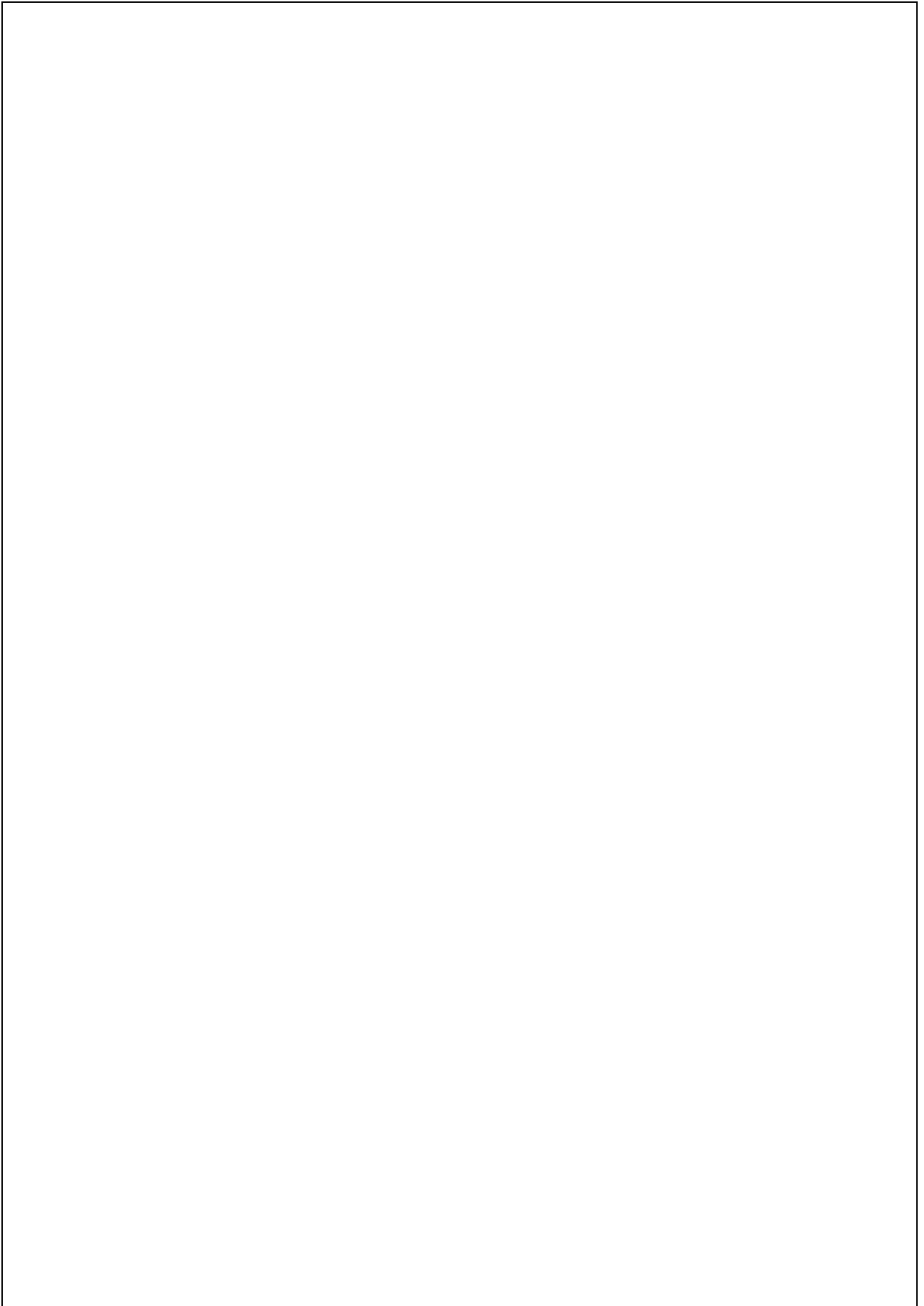
重要業績評価指標	基準値	目標値(平成 32 年度(2020))
まな VIVA ネット* による 団体活動情報等の発信件数	807 件 (平成 26 年度(2014 年度))	900 件
なかの生涯学習大学を卒 業後、地域活動に参加した ことのある人の割合	80.5% (平成 26 年度(2014 年度))	85%
図書館は学びや課題解決 に役立っていると感じて いる利用者の割合	—	90%

地域活動、見守り・支えあい推進

重要業績評価指標	基準値	目標値(平成 32 年度(2020))
地域の活動に参加した区民の割合	27%(平成 27 年度(2015 年度))	35%
ボランティア登録者数	531 人 (平成 26 年度(2014 年度))	560 人
地域住民相互で見守りや支えあいの活動をしている割合	27.7% (平成 27 年度(2015 年度))	30%
いざという時に地域に頼れる人がいる割合	74% (平成 26 年度(2014 年度))	78%

出典：[中野区まち・ひと・しごと創生総合戦略（PDF形式：1,176KB）](#)

CoderDojo 中野参加者	参加者(子供)	メンター(指導者)
		4
第一回	5	(他の Dojo の手伝い 2 名)
		6
第二回	5	(他の Dojo の手伝い 3 名)
		5
第三回	8	(他の Dojo のお手伝い 2 名)
第四回	6	5
第五回	10	4
第六回(都合により人数制限)	5	3
CoderDojo 中野 参加者		



(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

集客と告知

- ・運営には UX デザイン(ユーザーエクスペリエンス)の手法を用いる
- ・ウェブを利用して、参加の呼びかけを行う
- ・活動報告をホームページや SNS などを用いて告知する
- ・インターネット上での募金活動と支援協力の呼びかけを行う

プログラミング学習から得られるこどもの学びに関する知見の共有

- ・地域の子供が持続してプログラミングが学習できる場を提供する
- ・毎月開催するイベントで親同士の情報交換ができる場を提供する
- ・ホームページ上でプログラミング学習に関する情報を提供する

調査と検証

- ・中野区の保有するデータの透明性と共有を目的としてオープンデータ化を行う。オープンデータ化は Code for Tokyo の協力を得る
- ・こどもの学びに関するアンケートの実施
- ・運営するホームページやソーシャルメディアから得られる数値をもとに課題をより明確にする
- ・参加者に対するインタビューを通じて、深い洞察を得る
- ・得られた調査結果の報告を中野区に共有する

2017年度

- ・子供の学習環境に関するアンケートの実施
- ・区の保有するデータのオープンデータ化
- ・夏休みワークショップなど毎月の活動以外にイベントを行う
- ・募金の開始
- ・地域の中学生、高校生に対する活動の認知を行う
- ・地域のママコミュニティとの連携をはかる
- ・活動報告などを行い区の担当者との連携を強化する

1月	児童福祉施設への活動申請 ホームページ公開(プログラミング教育に関する知見の共有、活動報告を行う。現在は SNS のみ)
5月	区の助成金など申請 NPO 施設での開催を企画
8月	夏休みワークショップ

2018 年度以降

- ・アフタースクールと協力を行い、プログラミング教育の指導者の育成をはかる
- ・区と共同で防災訓練などの機会にアプリ作成などのイベントを実施
- ・各助成金への申請を行い、設備などの充実をはかる
- ・インタビュー調査を実施し、学びに関する洞察を得る
- ・活動から得られた知見とデータの共有を区に行う

(4) そのほか（公開）

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現に当たっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性（例えば「将来的に xx という制約をクリアできれば、追加で〇〇ということが実現できる」など）について、以下の

欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。

課題：現在協賛スクールより活動場所に協力をして頂いているが、小学生未満のお子さんや父母が集まれる場を探している

解決方法：児童福祉施設を借りることで解決を行おうとしている。NPO が管轄の区の施設を借りる予定。

課題：アンケート調査などを実施するにあたり、安定した調査結果を得るために区と協力したい

解決方法：区との連携を強めるために担当者の方と定期的に打ち合わせを行う機会を設ける

課題：告知などを地域の小学校などにも行いたい

解決方法：区の小学校に問い合わせなどを行う

将来性

・区と共同でワークショップなどのイベントを実施して、より多くの子供にプログラミング学習から得られる成功体験を体験してもらいたい。

→中学生や高校生などの告知と参加を行うことで実施可能

・活動資金などを地元の企業や住民に協力をしてもらい、活動に直接的に参加できなくてもより多くの区民にプロジェクトへの参加をしてもらいたい

→今後活動の告知をホームページ上で行うので、精力的にホームページの更新と整備を行うことで実現する

・防災アプリ作成イベントなどを通じて、地域社会に目を向けられる豊かな心を育んでももらいたい

・小学生、高校生が身近な地域課題の解決を自発的に行えるようになってもらいたい

→活動の認知と学びに来ている子供の技術が向上することで可能になる。身近な社会課題を子供に気づいてもらえるようにテーマを与える

・活動から得られた知見をより多くの人に共有したい

→ホームページの更新や毎月の活動を安定して行えるように参加メンターの協力を得られるようにする